

売れる米づくり技術情報 No. 5

～なんかん米 光る粒張り 粒ぞろい～

令和7年7月3日
J A えちご中越
なんかん南営農センター

草丈急伸長!! 倒伏の危険性あり!! 穂肥施用は生育診断を行って慎重に!!

1. 6月30日現在の水稻生育状況【南地区全域・長岡地域振興局指標】

- コシヒカリでは草丈長い、茎数少ない、葉数並、葉色並。
- こしいぶきでは草丈長い、茎数やや少ない、葉数並、葉色やや濃い。
- 前回調査から約2週間で草丈が急伸長！（コシヒカリ平均 25 cm伸長：最大 40 cm伸長）
- 田植時期や圃場間での生育差が大きいため、穂肥前には生育診断を実施して下さい。



	コシヒカリ				こしいぶき			
	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (L)	葉色 (SPAD)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (L)	葉色 (SPAD)
いちい地区	59.8	377.8	9.1	39.0	60.3	414.5	9.6	43.0
見附地区	60.1	354.7	10.0	38.4	60.5	451.2	10.2	43.9
中之島地区	61.0	380.3	10.6	38.5	63.0	423.4	10.9	42.4
南地区平均	60.3	370.9	9.9	38.6	61.3	429.7	10.2	43.1
指標値	52.0	480.0	9.7	39.0	52.0	500.0	10.2	40.5
目標比較(%:±)	116%	77%	+0.2	-0.4	118%	86%	±0	+2.6
南地区前年値	60.0	489.8	10.2	39.6	61.0	510.1	10.7	44.3

2. 幼穂形成期・出穂期予想と穂肥施用のめやす（6/30現在の予測）

幼穂形成期・出穂期は早生品種で1～2日早い予想、中生・晩生品種は平年並みの予想(圃場地力や今後の天候で変動)

品種	田植日	幼穂形成期	出穂期	穂肥 1回目			穂肥 2回目		
				施肥時期	出穂前日数	窒素量 (kg/10a)	施肥時期	出穂前日数	窒素量 (kg/10a)
こしいぶき	5/5～10	6/29	7/21	6/28	23	1.0	7/7	14	1.5
こがねもち	5/5～10	7/4	7/27	7/9～12	18～15	1.0～1.5	7/17	10	1.0～1.5
あきだわら	5/10	7/21	8/13	7/19～21	25～23	2.0～3.0	7/30	14	3.0
コシヒカリ	5/5	7/9	8/1	7/14～17	18～15	1.0～1.5	7/22	10	1.0～1.5
	5/10	7/11	8/3	7/16～19			7/24		
	5/15	7/13	8/5	7/18～21			7/26		
	直播	7/14	8/6	7/19～22			7/27		
新之助	5/15	7/18	8/10	7/20～23	21～18	1.0～1.5	7/31	10	1.0～1.5

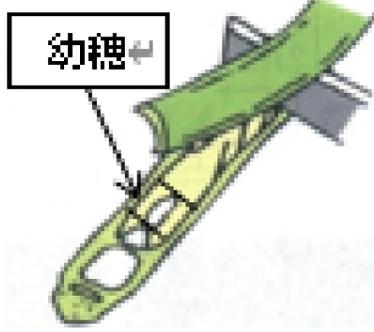
- 穂肥を多めに施用したり、時期が早過ぎたりすると草丈の伸長や、籾数過剰、登熟歩合の低下などが起こるため、適期適量での施用をお願いします。
- 2回目の穂肥(出穂前10日頃)は節間伸長にほとんど影響しないので、後期栄養を維持し、登熟向上と品質低下防止のため確実に施用しましょう。
- 元肥一発肥料を施用していて、出穂前10日で止葉の下の葉(第2葉)の葉色が葉色板(カラスケール)で4.2～4.3、SPADで32～33を下回っている場合、速効性化学窒素肥料で窒素成分1kg/10aを超えない量で追肥してください。

- **有機含有肥料の場合は施肥時期の調整を**
有機由来窒素を含有する肥料を使用する場合には、化学窒素100%の肥料よりも右側の表を参考に、散布時期の調節をしてください。

有機窒素割合	早める日数	肥料名
20%以下	-	穂肥500号
30～40%	1～2日	越の輝き有機30穂肥
50～60%	2～3日	越の輝き有機50穂肥
100%	5～7日	有機アグレット673

3. 幼穂長からの穂肥時期の判断と施肥判断

- 生育が平均的な株を3株ほど選び、その中から主幹(一番大きな茎)を引き抜き、カッターなどを使い茎を割り幼穂の長さを確認する。
- 幼穂の長さを測定し下記表を参考に出穂前日数を確認する。



・ 幼穂長と出穂前日数の関係

幼穂長(cm)	0.1	0.13	0.2	0.5~1.0	4.0~6.0
出穂前日数	24	23	20	18	12

- 品種ごとの施用適期と生育の日安を参考に施肥量を決定する

・ 品種ごとの時期

出穂前	生育ステージ	穂肥時期
23~25日	幼穂形成期	こしいぶき等早生品種の1回目
約18日	花粉母細胞分化期	コシヒカリ等中生品種の1回目
約10日	減数分裂期	2回目の穂肥時期

・ コシヒカリ1回目穂肥時の生育目安

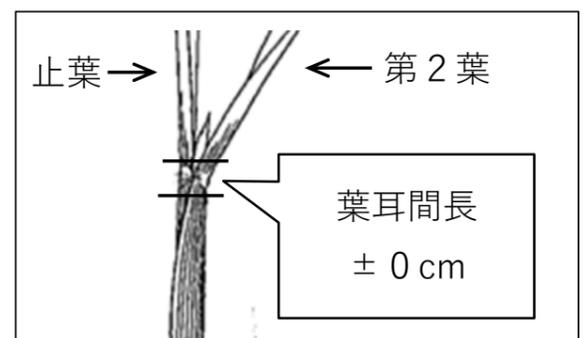
診断項目	基準数値
草丈	75cm
茎数	45株植え 30本/株
	50株植え 27本/株
葉色	SPAD34 (葉色板 単葉4.4)

- 目安の稲姿と比べ草丈が長い場合は、下位節間の伸長を抑え倒伏を軽減するために、**遅らせて施用**。茎数が多い、葉色が濃い場合は**控えめの施用**を行う。

4. コシヒカリの2回目穂肥(出穂前10日頃)以降の施用について

- 2回目穂肥は後期栄養維持のため、確実に施用しましょう。
- 高温条件下では、2回目穂肥は確実に施用し、葉色の維持、登熟向上を図り品質低下を防止しましょう。
- 1回目穂肥が出穂前18日より遅れた場合は、1回目穂肥の7日後を目安に施用を行いましょ。
- 高温年や、穂肥を2回施用しても葉色が薄い場合、窒素量上限内で3回目の穂肥を出穂3日前(はしり穂が見えるころ)までに施用しましょう。

コシヒカリ2回目穂肥の時期



5. 中干し終了後は間断灌水から飽水管理へ

- 中干し終了後浅水の間断灌水を行い、徐々に飽水管理へ移行しましょう。
- 中干し直後の湛水は酸素不足による根腐れを起こしやすいため注意しましょう。
- 出穂・開花期にかけて最も水を必要とする時期であり、田面に水分がある状態を維持しましょう。(高温時の長期湛水は避けましょ)
- 異常高温やフェーン時には速やかに湛水し、稲体の急激な蒸散を防ぎましょ。

**出穂前1ヶ月で
中干しは終了しましょ!**

**水は限りある資源です!
地域状況に合わせ適切な管理を!**

6. 斑点米カメムシ対策のため、農道畦畔の管理徹底をお願いします。

- 先般の病害虫予察調査では農道畦畔のすくい取りでカメムシが多く捕獲されております。今後も高温傾向が予想されるため、カメムシの多発に注意が必要な状況です。
- 畦畔や農道の草刈りを継続し、出穂期以降も雑草種子が結実しない状態を維持ましょ。
- ヒエ・ホタルイ等は、カメムシ類の水田侵入・増殖を助長するため水田内の取り残し雑草を除草ましょ。
- 共同防除地域で、早生の出穂期が防除日より10日以上早い場合は追加防除も検討ましょ。



7. いもち病・紋枯病防除

- いもち病感染好適日を示すBLASTAMにて感染好適日が発生しております。中山間地など多発地区や弱い品種(新之助・わたぼうし等)作付圃場では見歩きを行い、早期発見・早期防除に努めましょ。
- 紋枯病が前年発生した圃場は多発しやすくなります。特にこしいぶきは紋枯れ病に弱いため、7/10~7/20頃に圃場を見回り、発生が確認された場合は早めの防除をお願いします。